



大空の男 石岡市消防本部に降り立つ

菊地^{ひかる}輝司令 ～茨城県防災航空隊から石岡市消防本部へ～

この表紙を覚えていますか？

これは令和3年9月1日発行の
広報石岡第382号です。

表紙の写真は、同年7月に行わ
れた石岡消防署新愛郷橋出張所の
開所式で撮影されました。

写真右の男性は市消防本部か
ら県防災航空隊に派遣されてい
た菊地^{ひかる}輝司令（当時は副隊長）
です。令和3年4月から県防災
航空隊に派遣されていた菊地司
令が、今年4月に市消防本部に
帰任しました。

大空を舞台に人命救助に奔走し
た菊地司令は、県防災航空隊でど
のような経験をし、現在はそのよ
うな業務に従事しているのでは
うか？

市民の安全・安心を守るという
重要な業務に従事しながら、普段
はなかなか知ることができない消
防職員の素顔。菊地司令の業務を
通して、その素顔に迫りました。



▲菊地 輝 司令（写真右）

危険と隣り合わせの状態での救助



▲県防災航空隊での救助の様子

県防災航空隊にて

防災航空隊は、災害や事故などに備え、福島、茨城、栃木、群馬、埼玉の5県で協定を結び、広域的に活動しています。具体的には、水難事故における河川・海上での人命救助、山林火災での空中消火、山岳事故における人命救助など、活動内容は多岐に渡ります。一瞬の判断ミスが重大な事故につながるもので、常に、極度の緊張状態で救助に従事していました。防災航空隊では、都道府県や市区町村などの行政区分を越えて活動するため「横のつながり」ができました。近年、災害が広域化・激甚化する中、この「横のつながり」を活かすべき機会が増えるのではないかと考えます。

現場で活躍する隊員を陰で支える

救助の仕事に長く従事していたため、異業種に転職しようですが、毎日、新しいことを学べて、とても楽しいです。現在、総務課には8人の職員が在籍していますが、そのうち5人は4月から新しく配属された職員です。職場では、上司が部下に一方的に指示を出すのではなく、全員が協力して情報を共有し、業務を進めています。今後も、風通しの良い組織づくりを心掛けて、時代の変化に対応していきたいです。

4月から消防本部総務課・課長補佐に任命されました。現在は、庁舎や車両の整備などを担当し、現場で活躍する隊員を支える仕事をしています。

市消防本部にて



▲消防本部総務課にて業務に従事する菊地司令（左）

Interview

自分がつくり出した「限界」を超える

○業務においてモチベーションを上げる方法は？

さまざまなことに興味を持つことです。後輩たちにも「学びの姿勢」を見せ続けたいと思っています。「自分には無理…」という気持ちは、自分でつくり出していることが多いです。この限界を壊して、超えてやろうという気持ちを常に持っています。

○消防職員を目指す皆さんへのメッセージ

私は、消防職員に憧れて、現在の仕事に就きました。「消防署の仕事は危険で怖い」と思うかもしれませんが、たくさんの経験を積むことができ、上司が安全を配慮してくれるので、良い仕事だと思います。



▲菊地 輝 司令…平成15年石岡市消防本部入庁。石岡市消防本部特別救助隊を経て令和3年4月から県防災航空隊へ派遣。令和6年4月に石岡市消防本部へ帰任。